

— 気象講演会雑感 —

平成7年度北海道支部気象講演会

日本気象協会北海道本部 佐竹正治
札幌管区気象台 西山利彦

北海道支部では、支部事業活動として道内の各市を巡回する形で気象講演会を開催してきているが、このような地道な努力の一端が報われ、昨年度は文部省から『平成7年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(研究成果公開發表B)』が助成され、昨年10月27日に平成7年度北海道支部気象講演会を釧路市に於いて開催することができた。この気象講演会の開催にあたっては、会場設定、広報活動など事前準備から気象講演会当日まで釧路地方気象台及び日本気象協会釧路支部職員の全面的な協力によって行われ、123名の多数市民の参加で盛会裡に終了したので、その経過等について報告する。

気象講演会の計画段階では、開催地及び時期並びにその会場と規模、講演内容と講師、後援機関と協力機関の有無等が検討され、開催地はラムサール条約に関する国際大会後2年を経過し自然環境保全に関する意識の高い「釧路市」に、会場も市民の学習・文化活動や新たな地域文化創造の期待を担った地上10階の「まなぼつと弊舞」の愛唱で呼ばれている「釧路市生涯学習センター」に決定された。

また、講演内容についても検討の結果、地域に密着し、かつ感心の深い地球環境問題と地震活動を含め市民大学講座「新しい気象学—釧路湿原の大気環境と最近の北海道周辺の地震活動—」をテーマとした4題の講演が決定された。

気象講演会当日は好天に恵まれ、開場後の出足も好調で、開演前にはあらかじめ用意した座席もほぼ埋まり、その参加人員(年齢別・職業別)は下図のとおりであった。

気象講演会参加人員



講演は、工藤講演担当理事の挨拶から始まり、原釧路地方気象台長の座長で進められた。講演内容は本誌に掲載されているので参照願いたい。各講師とも現地に密着した演題を多目的ホールのスクリーンいっぱい映し出したOHP・スライドを駆使して熱心に講演して頂いた。さすがに新しい施設は、照明・音響効果は抜群に良く、素晴らしい講演環境であったためか、各講師とも予定時間をオーバーする状況で、最終の笠原先生の講演は多少急いで貰う状況であった。また、聴講者からも活発な質問が多く出て、講演者と会場が一つになった感があった。幹事としても、出来るならもっと時間を取りたいと思ったが、ホールの後の使用が詰まっておりますので予定どおり終了した。

この盛会は、報道機関、公共機関、団体、学校等に気象講演会案内(ポスター・チラシ)を配布するなど精力的な広報活動に支えられた結果であった。

反省点としては、講演時間を45分としたが質問応答も考え、今後は多少余裕を持った時間設定にすべきだろうと思えた。

最後に釧路地方気象台の職員、とりわけ、船島課長の率いる防災業務課の皆様、日本気象協会釧路支部の皆様にご協力いただき誠にありがとうございました。また、ご後援頂いた各機関のご厚意に感謝申し上げます。